



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R6年度 CS通信No.4 R6.6.20



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

ふるさと自慢わが町 CM 大賞作品に挑戦 (鯨ヶ沢中学校第3学年)



鯨ヶ沢中学校第3学年では、今年度、ふるさと学習として、ふるさと自慢わが町 CM 大賞作品に挑戦することになりました。

この取り組みは、30秒のCMを通して、ふるさとの魅力を感じてもらうもので、今回は、制作した中から代表作品を選び、町の代表作品として応募するということでした。

5月30日(木)は、鯨ヶ沢町役場企画観光課の職員が、学校を訪れ、CMづくりについて説明しました。昨年度の作品を元にして1テーマを決める。2絵コンテを作る。3素材を撮影する。4編集する。等CMづくりの手順とその方法について学習しました。

CM作品完成後、まず、7月の発表会で披露するということですので、今から完成が楽しみです。

アスパラ農家の仕事(舞戸小学校第3学年)



舞戸小学校第3学年では、鯨ヶ沢町のアスパラ農家で働く人の仕事や様子を見学し、仕事についての工夫や努力に気づかせることをねらいにアスパラ畑の見学を行いました。

協力してくれたアスパラ農家は、湯舟地区にアスパラ畑を所有している川田春実さんです。

川田さんは、アスパラは、機械がなくても作ることができるので、10年ほど前から作り始めたこと、天候に左右されることなく収穫できること、急に大雨が降ったり、何日も雨が降らなくて困ったりしていることなどを説明していました。

今回の校外学習では、舞戸小担当の地域学校協働活動推進員の渋谷貴子さんの呼びかけで、4人の学校支援ボランティアが集まり、協力しました。

アスパラを収穫する体験では、班ごとに一人ずつ付き添って、アスパラ畑に誘導していました。

川田さんの話では、鯨ヶ沢は、アスパラの収穫量が青森県第1位であること、町の人口が減っていること、アスパラの後継者も不足していること、アスパラを作って鯨ヶ沢町を盛り上げる人が出てほしい等の話がありました。

学校支援ボランティアの協力で体力テスト



6月18日(火)西海小学校で体力・運動能力の現状を確認するために体力テストが行われました。体力テストには、西海小担当の地域学校協働活動推進員の工藤律子さんの呼びかけで5人の学校支援ボランティアが応援に集まりました。

学校支援ボランティアの皆さんは、それぞれの種目の担当の先生とコンビを組み、子どもたちの体力を測定しました。

担当の先生方に話を聞くと、学校支援ボランティアが入ることで、短時間で正確に測定できるということやはじめと終わりの挨拶がよくできるようになったという話がありました。